不義理の日

英国のＢＢＣ放送がこう報じたことがある。「英国国会議事堂の大時計がデジタル化されることになりました。長針と短針が不要となります。聞いて下さっている人に進呈したいので希望者は申し込まれたし......」。

日本語放送だった。国際放送を聴いている人は多い。日本から申し込みが殺到した。だが残念、エープリルフールとわかった。

４月１日に罪のない冗談で人をかつぐ。欧米で盛んだが、インドに発する風習との説もある。いわゆる４月馬鹿。中国から日本に伝わった江戸時代の呼び名が面白い。「不義理の日」といった。

四角四面の毎日、たまには不義理、不まじめもよかろう、との趣旨だろうが、根っから緊張好きな人々の国なのだろうか、あまりはやらない。いや、日常の政治で、うそは十分だという人もいるかも知れぬ。欧米では、この日、報道機関まで冗談や虚報をさりげなく報じるから油断がならない。

大企業の合併。有名人の恋。もっともらしいが、想像力と遊び心の産物だ。「紙面の日付をご覧ください」と何げなく記してあって、それと知れる。

やはりＢＢＣの日本語放送が「このほどコマーシャルを入れることになりました」と放送したことがあった。「関心のある企業はどうぞ」。つい、引っ掛かる企業が出る。

ところでＢＢＣといえば、その日本語放送は歴史が古く、人気が高かった。それが３月に廃止となった。毎日聴いている人が１０年前の約半数、２０万人ほどに減った、というのが理由らしい。戦時中の１９４３年（昭和１８年）に対日宣伝放送として始まったものだ。

同様に、ラジオ・カナダ・インターナショナル（ＲＣＩ）の日本語放送が、先月、廃止された。存続を願った人々の夢も潰えた。経済削減が理由だ。これも時代だろうか。さびしく思う人が多いに違いない。

何？いや、すべて本当の話である。